

第3回 糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議） 次第

令和元年 11 月 11 日（土） 18 時 30 分

共場糸魚川commons

1 開 会

2 前回のふりかえり

3 講 義

○糸魚川ならではの資源と活用を考える ～ 暮らしの地産地消 ～

- ・原 大祐 様 （C o . L a b 代表取締役、N P O 西湘をあそぶ会代表理事）
- ・竹内 昌義 様 （みかんぐみ共同主宰、東北芸術工科大学教授）

4 ディスカッション

5 その他、連絡事項等

6 閉 会

第2回実践会議 | 子育て・しごと・教育

■レクチャー | ゲスト講師：丑田俊輔氏「子どもから大人まで、遊び学び続ける時代」

■自己紹介

- ⇒ 学生時代に遊休不動産を民間に賃貸借した公共施設のシェアオフィス「ちよだプラットフォームスクウェア」の企画に携わった。
- ⇒ IBM を退社後、世界を旅しながら、様々な国の教育について関心を持つようになった。子どもが産まれたことをきっかけに「教育」が自分ごとになり、教育関連事業を立ち上げ、2010 年にハバタクを創業した。
- ⇒ 2014 年から秋田県五城目町に移住し、協働で新たな事業が生まれるなど、事業規模が拡大し、地域に力があふれるような、持続的に地域が活性化する仕組みづくりを実践している。
- ⇒ 子どもだけでなく大人も遊びながら楽しむことをテーマに、事業を展開しており、人をはじめさまざまな繋がりが地域に生れる。

■五城目町での取り組み

① シェアオフィス

- ・築年数が浅い廃校を活用し、1 エリア 2 ～ 3 万程度のレンタルオフィスをつくった。新たに起業・創業した人や会社などを中心に、現在 20 社程度が集まっている。
- ・地域の目を気にせずに自分の考える事業を計画できる環境ができていると感じている。事業規模が小さい会社でも社会にインパクトを与えることは十分可能である。

② シェアビレッジ

- ・移住するかしないか、という 0 か 1 の選択ということに少なからず違和感を感じていた時に、取り壊し予定の茅葺屋根の古民家に出会いシェアビレッジ（＝会員制第二の住処事業）事業を実施した。
- ・クラウドファンディングで資金を集め、屋根の修繕等を行い「開村」としてオープンした。年会費（＝年貢）を納めて会員になっていただき会員限定のサービスを提供している（古民家への宿泊や農作業）。
- ・会員になった方たちは、自由に古民家へ来て、地元の人と交流できるため、住んではいなくても関係人口がどんどん増えている。
- ・会員は、首都圏在住の方も多いため、東京ではそうした方々を対象に「寄合」という名の交流会を行い、五城目町に行かなくても交流できるようなイベントを作っている。
- ・古民家では、年 1 回「一揆」と称した祭りを開催し、一大行事である。
- ・古民家を維持・保全するだけでなく、そこにエンターテインメント性が加わることで、楽しさを増大することが重要である。

③ 朝市

- ・約 520 年前から続いているという朝市は、文化として根づいている反面、新たに若い人たちが出店、参加するにはハードルが高かったが、若い人たちの起業につながる場にならないかと考え、チャレンジやプロモーションの場にもなるような仕組みをつくった。
- ・朝市から発展してまちなかに新たな店ができたり、朝市の入り口にある酒屋が刺激を受け、新たな施設を整備する、といった相乗効果が生まれており、新たなプレイヤーが入って来ることによる適度なゆらぎがまちには必要だと感じている。

④ 地域の次世代が育つ環境づくり

- ・秋田県にある国際教養大学にいる留学生を招き、中学校の総合学習と連携し、生徒たちが様々な国の人と交流できるような取り組みを行っている。
- ・五城目小学校新校舎整備の際に、住民参加型（ワークショップ形式）で設計され、地域の誰もが入学できるという「生涯学べる小学校」をコンセプトに設計され、真ん中に多世代エリアが設定されている。
- ・教育の遊動化を進めたいと思っており、期間限定で転校できるような仕組みを作りたい。児童の泊まる場所として教育民泊というような施設を用意して、子どもを預かる想定をしており、近いうちに事業を開始する。

⑤ ただの遊び場

- ・子どもも大人も楽しめるような場所を作りたいと思い、空き家を活用して、「ただの遊び場」をつくった。
- ・初期投資はクラウドファンディングや補助金を活用し、地域の人たちとの DIY や本の提供等によってオープンした。今では、地域の子どもたちや親たちのたまり場となっている。
- ・一部有料プログラムを提供し、最低限の運営費に充て、地域の方と連携して子どもの見守りを行っている。

《まとめ》

「遊び、学び続ける地域社会」の実現によって、暮らし方や働き方、つながり方も変わってくる。学校教育だけでなく、日常の暮らし、地域社会の中でも学びの環境を作り、人がいろいろな場所で学べるような場所ができるのが良い。

現在、山を里山テーマパークにして遊べるような空間をつくりたいと考えている。「わくわくする」気持ちが原動力となって、結果的に地域課題の解決につながっていくと考えている。

第2回実践会議 | 子育て・しごと・教育

「糸魚川だからできる子育て」とは？

講演を聴いて

「遊び」+「学び」⇒ 仕事に



Point

チャレンジ・遊び心

地域の空気感を読み過ぎず
共感できる仲間

■ 参加者（横浜から移住）の声
子育てしやすいイメージ

▼
子どもの姿がない
コミュニティもない

▼
0歳～2歳の壁

■ 参加者（つくばから移住）の声
マニュアル通りの幼稚園

▼
ある意味の不便さ

▼
「慣れ」の解消

働き方

- ・ 休みや時間があれば良ではない
- ・ 仕事や子育てが緩やかに繋がる仕組み・環境
- ・ 遊びと学びと仕事セットで成立するプログラム
⇒ 市内企業による提案・コンテスト
- ・ 自分が楽しんでいるから人が集まる
- ・ **協力し合える職場環境**
- ・ **地域の中のセーフティネットワーク**
- ・ 遊休人材（高校生・高齢者）の子育て参画

子どもに向けて

- ・ 自主性
- ・ 五感を育む（体験）
- ・ **次の時代の「ものさし」**
- ・ 自分が考えるチカラ
- ・ 世間に触れてたくましく
- ・ 家庭のふところ
- ・ わくわくするコト
- ・ 体験 ⇒ 都会と糸魚川
- ・ 義援金で「ただの遊び場」案

《楽しんでいた子育て》

- ・ 子どもの姿が通りにない
- ・ 仲良くなったママ同士が集まる場所（0歳～2歳児のママ）

《子どもに向けて何ができるか》

- ・ むかし | 子育て多数
- ・ いま | 親子少数
- ・ **公のセーフティネットから**
- ・ **民のセーフティネットへ**
- ・ 子育て世代への企業努力
- ・ 自主性を伸ばす
- ・ Playfull 思想が有効では？

《地域で育てる》

- ・ 子どもに大人も育てられる
- ・ 目的と手段を間違えない
- ・ 前と上を向いてコツコツと

《支援ではなく共有》

- ・ 身近で気楽な高齢者
- ・ 求めるのではなく自分たちでつくっていく

アイディア

- ・ 糸魚川の自然を生かした教育
例：Akita こどもの森
子どもたちの自然と共に生きる
チカラを育む「森のようちえん」
- ・ 蕎麦屋・酒造+銭湯（大衆浴場）
+ 寄合・演芸場=コミュニティ

意見等

★様々な世代が集まるような場の創出 『ランドリー×ライブラリー（図書館）×銭湯×ハローワーク…』
⇒**集まりやすさ重視**（必要に応じて専門家が出向く。）
空き家活用も積極的に考えていくべき。昔、銭湯やランドリーを経営していた人などから知恵をもらうのもいいのでは。読み聞かせができる地域の人がある。
（例）アソビバ（下早川地区公民館を会場に開催） お金を使わない遊び。市外含め地区外の参加者多い。

★地域みんなで子育てする環境
商店街が**昔の遊び場だった**⇒親と地域、子どもと地域の会話が日常的に行われていた
※最近の取組み『商店街を回ろう！企画』ジュースなどを配ることによって、子どもたちがお菓子を買ったりするなど、子どもが沸いているほどの雰囲気があった。

★0～2歳児を持つパパママが1日楽しめるような場
・**子どもを放牧**でき、パパママがごはんをゆっくり食べれる場所が欲しい。（一時的に**ママをやめる時間**となるような場所）→支援センターは、気軽な悩みを話しやすい。
・**育児に関する悩みをただしゅべって共感したい！**行政に頼ることない遊び場工夫できる。

★子育て世代が働きやすい職場環境の整備
「子育て世代＝働く世代」なので、企業の子育てへの理解が不可欠。**子どもを職場に連れてきてても問題ない環境**を望む。

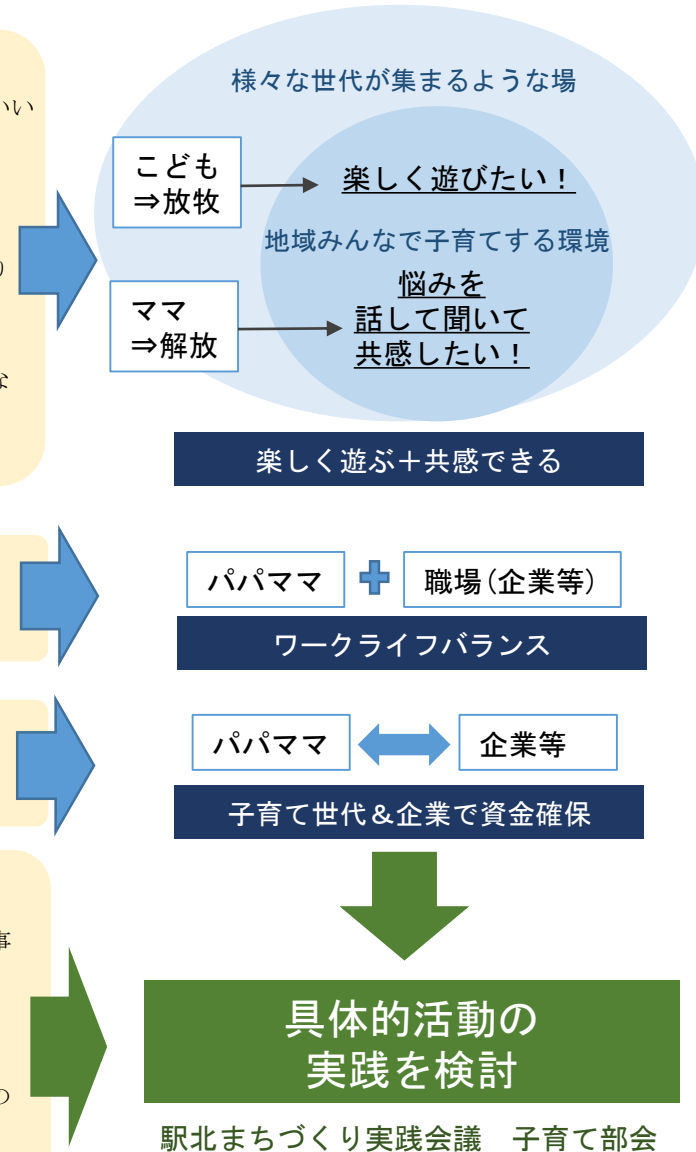
★資金調達について
やりたいことをやるにも、お金は必要である
企業も子育て世代とつながりたいと思うので、協賛金は出るのでは！？

★考え方について
外国人の出産人数が多いので、外国人をターゲットにした取組みがいいのでは
糸魚川を良くしようと考えると手詰まりになるから、**必要な機能を考えてから、資本主義の話をする方が物事が進みやすい**
他の成功事例と同じことをやっても意味がないので、**糸魚川流にアレンジ**を行うべき！
『**楽観的に発想し、あとから経済的な考え方を活動に加え、楽観的に実行**』というマインドが重要！

★ソフトウェア重視
ソフトウェアで糸魚川に来る企画を考えた方がいい。**とんがっている人を糸魚川に呼びたい**。「ビギンズ」のような取組みを継続的にやるべき

★駅北という特性を活かす
駅北というアクセスの良さ。当初の目的にある**「街を周遊させる」**という観点も考える。

駅北で…



駅北まちづくり会議 実践会議

R1.11.11参考資料



市の現状、課題整理

R1.7.5撮影

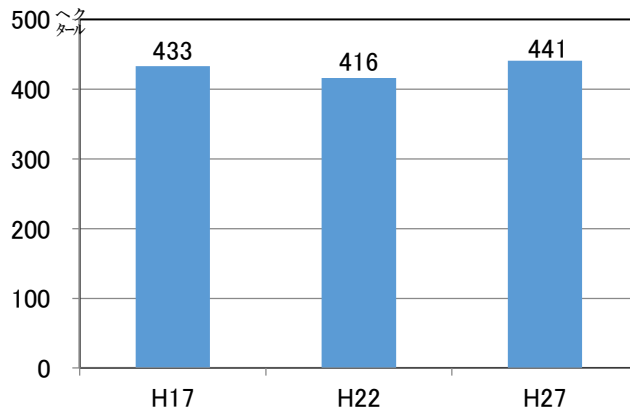
一次産業の現状

糸魚川市の農業（農地）

- ・ 耕地面積 2, 4 8 0 ㍏ (市面積74, 600㍏の3. 3%)
- ・ 農振農用地面積 2, 4 4 6 ㍏
- ・ 水田台帳面積 1, 7 2 6 ㍏
- ※農振農用地：農業振興地域整備計画に基づき、生産性の高い農地等、農業振興を図るべき指定された土地
- ・ 基盤整備面積 1, 6 1 4 ㍏ (耕地面積の約65. 1%)
- ・ 農地集積率 3 3. 2 % (新潟県は62. 8%)

【新潟県農林水産統計年報 H 3 1. 4. 1 現在】

- ・ 耕作放棄地面積 【2015年農林業センサス】



- ・ 糸魚川市の耕地の約 7 割は水田
- ・ 担い手不足で農地の集積が進んでいない。
- ・ 耕作放棄地は徐々に増加傾向。

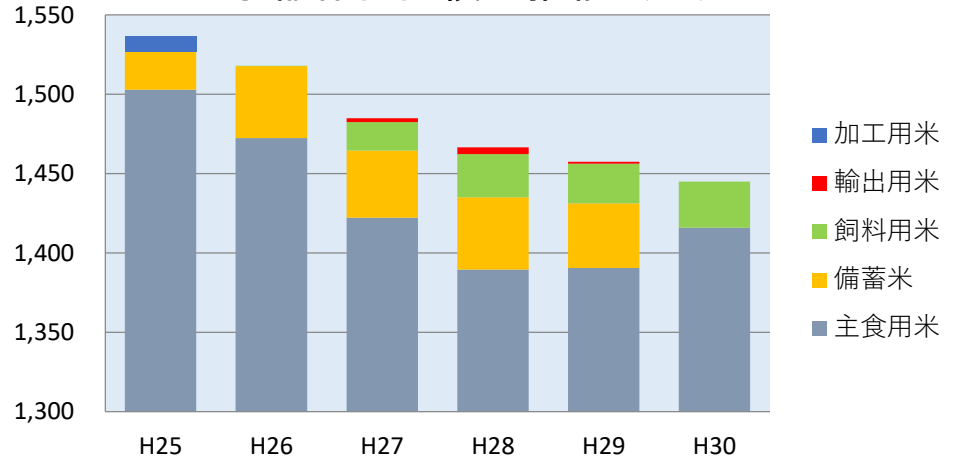
糸魚川市の農業（利用状況）

水田の利用状況の推移(ha)

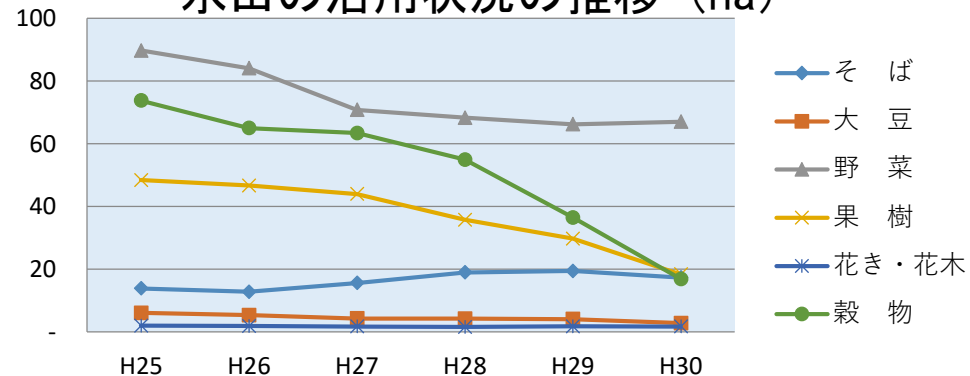
	H27	H28	H29	H30
主食用米	1,422.28	1,389.57	1,390.59	1,416.06
備蓄米	42.36	45.65	40.66	-
飼料用米	17.91	27.10	25.10	28.97
輸出用米	2.30	4.25	1.11	-
加工用米	-	-	-	-
水稻面積合計	1,484.85	1,466.57	1,458.12	1,430.56
そば	15.62	18.99	19.44	17.36
大豆	4.31	4.22	4.08	2.82
野菜	70.81	68.30	66.20	67.01
果樹	43.98	35.74	29.74	18.34
花き・花木	1.74	1.57	1.79	1.75
穀物	63.40	54.95	36.47	16.86

出典：水田台帳

水稻作付面積の推移（ha）



水田の活用状況の推移（ha）



- ・ 水稻作付面積について、主食用米はほぼ同じで、飼料用米は増加傾向。
- ・ その他では、果樹（ぶどう、いちじく等）、穀物（小豆、ごま等）が減少。

糸魚川市の農業（利用状況）

糸魚川市の農業産出額(百万円)

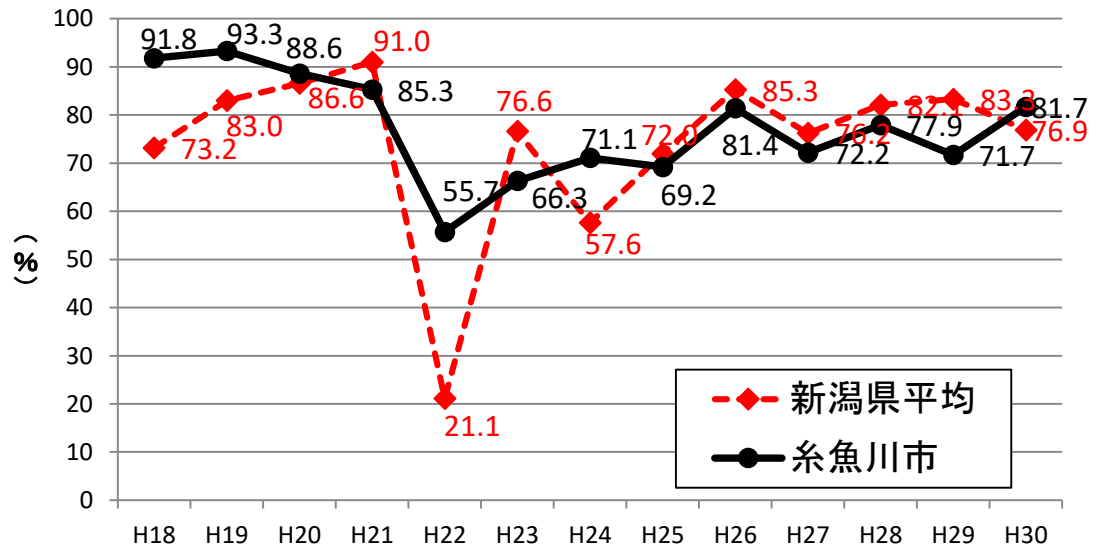
	H26	H27	H28	H29
農業産出額	1,880	1,850	1,970	1,970
うち米	1,440	1,410	1,530	1,560
うち園芸	200	200	200	180

水稻作付状況の推移

	作付面積 (ha)		単収 (kg/10a)	
	新潟県	糸魚川市	新潟県	糸魚川市
H20	116,900	1,600	551	489
H21	117,400	1,600	534	472
H22	117,900	1,570	524	456
H23	117,400	1,540	538	474
H24	117,500	1,530	558	450
H25	119,700	1,540	555	480
H26	120,100	1,520	547	479
H27	117,500	1,470	527	466
H28	116,800	1,440	581	482
H29	116,300	1,440	526	467
H30	118,200	1,470	531	467

出典:新潟県農林水産統計年鑑

コシヒカリ1等級比率の推移



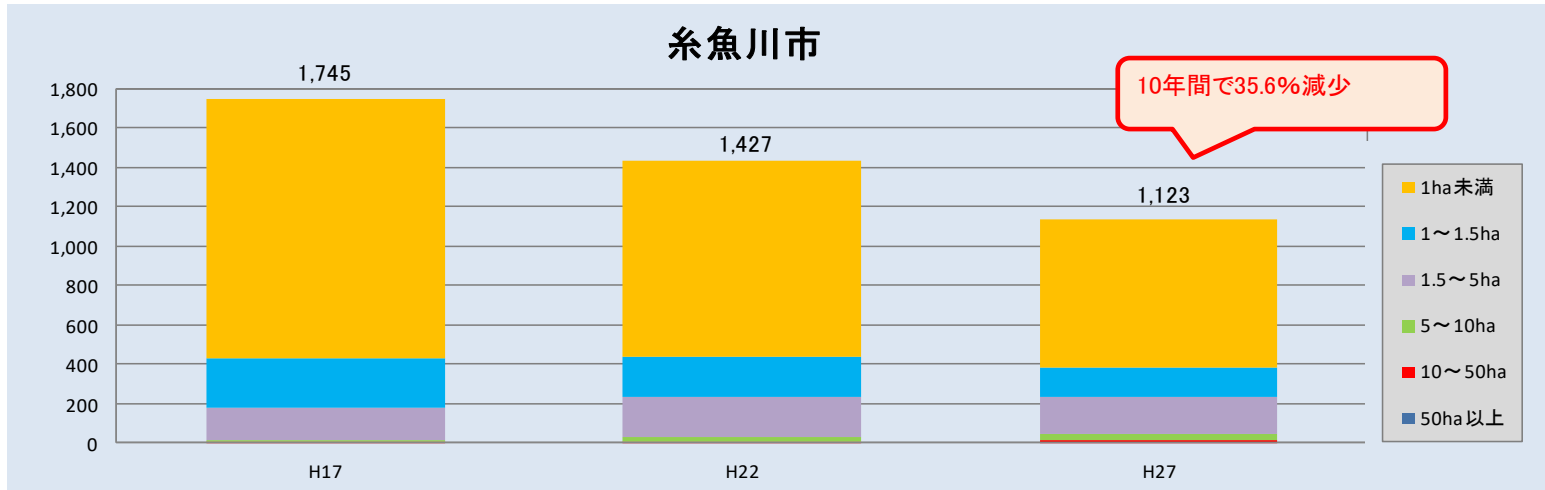
出典:新潟農林水産部、JAひすい

- ・ 米の農業産出額は、ほぼ横ばい。
- ・ 10a(1,000㎡)あたりの収量は、新潟県の約8割～9割程度。県ワースト2位

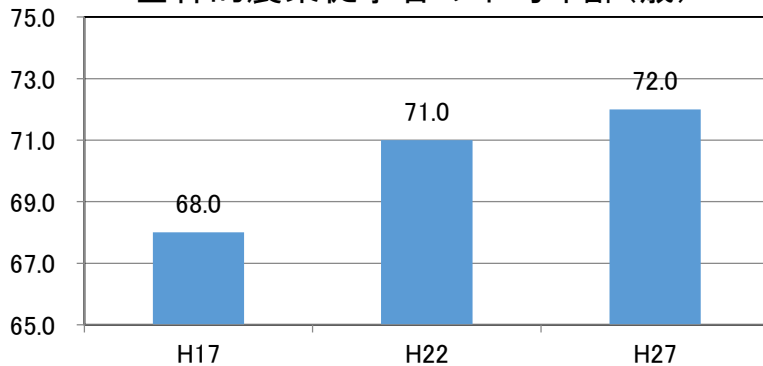
糸魚川市の農業（経営体数）

経営耕地面積規模別 経営体数(戸)

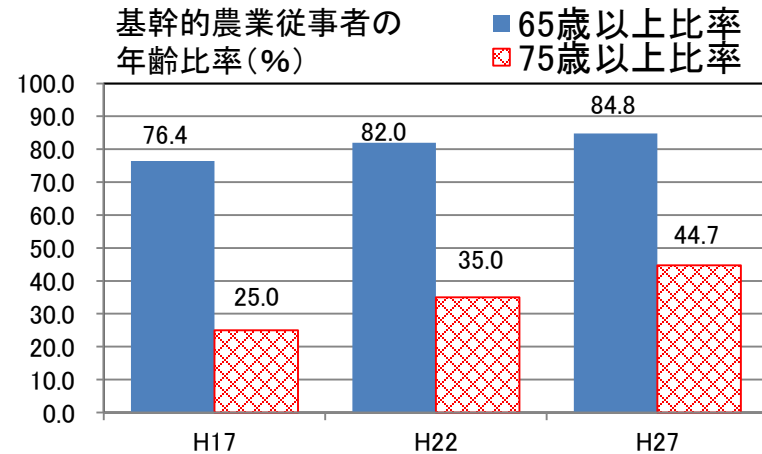
農林業センサスより



基幹的農業従事者の平均年齢(歳)



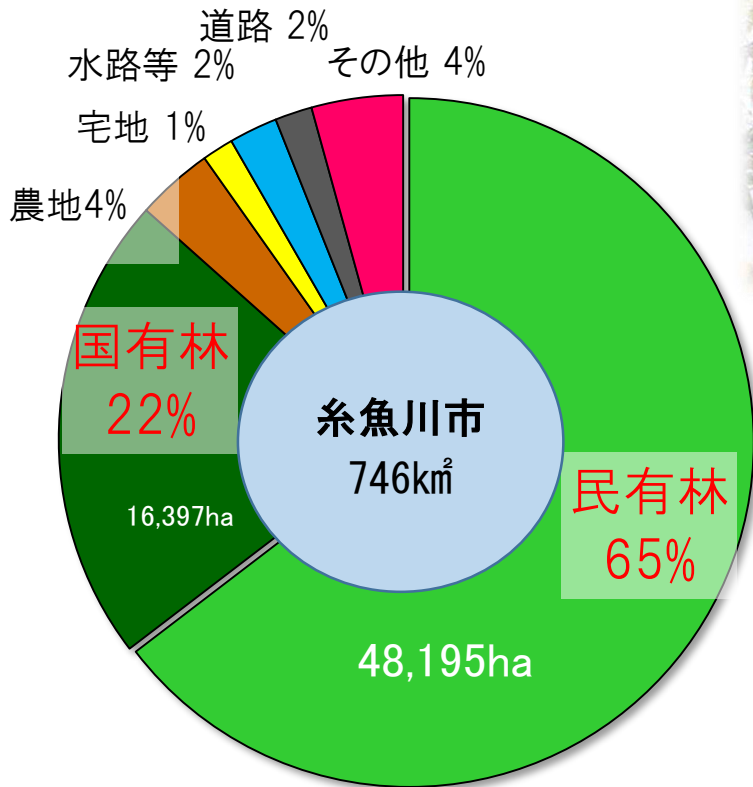
基幹的農業従事者の 年齢比率(%)



- ・ 経営体数は10年間で35.6%減少
- ・ 基幹的農業従事者の平均年齢は高くなってきている。

糸魚川市の林業（土地）

土地利用状況



糸魚川市の面積の87%が森林です

このうち杉などの人工林（9,800ha）は、約45～90年前に植林されたものが多い

糸魚川市の林業（森の循環）

森林の手入れをすることで
元気な森林づくりを助けます

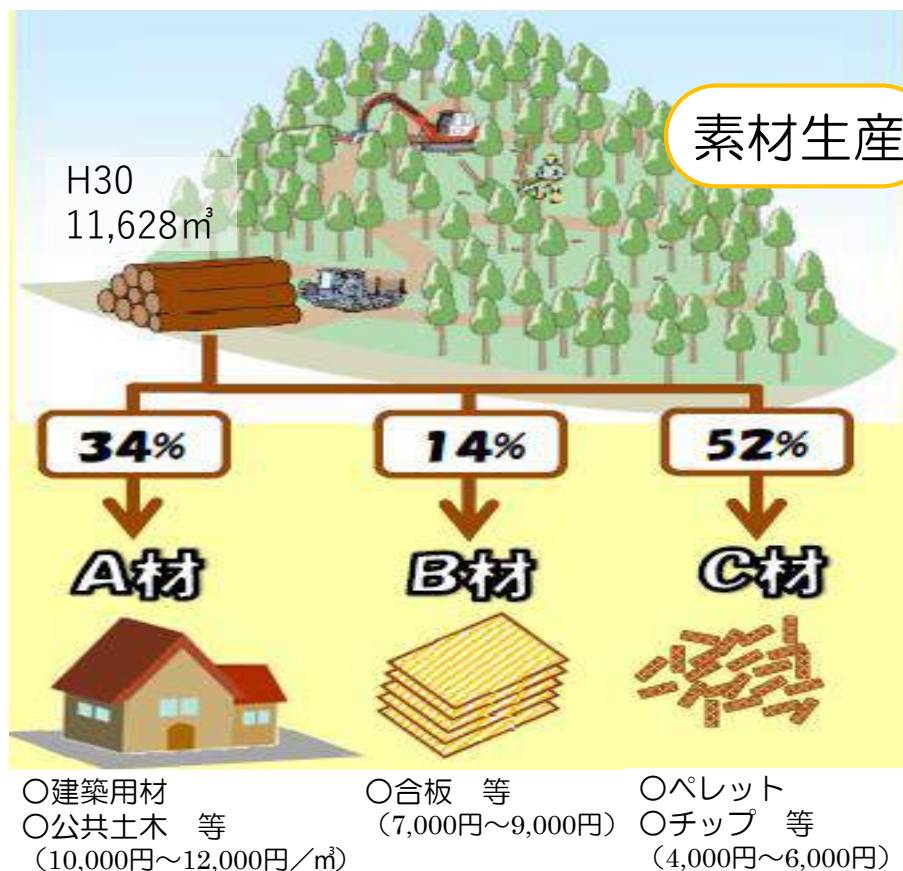
【森林の多面的機能】

- 水源涵養機能
- 山地災害防止・土壌保全機能
- 快適環境形成機能
- 保健・レクリエーション機能
- 文化機能
- 生物多様性保全機能
- 地球環境保全機能
- 木材等生産機能



森林資源は約50年のサイクルで永年循環できる

糸魚川市の林業（木材）



伐採

・平成30年度は、11,628m³の原木を生産

製材・使用

- ・建築用材 3,953m³ × 10,000円
 - ・合板 等 1,628m³ × 7,000円
 - ・ペレット等 6,047m³ × 4,000円
- 総額 **約7,511万円**で流通

糸魚川市では間伐による木材生産が多い

間伐材を使うことで、森林の成長や地球温暖化防止を助けることになる

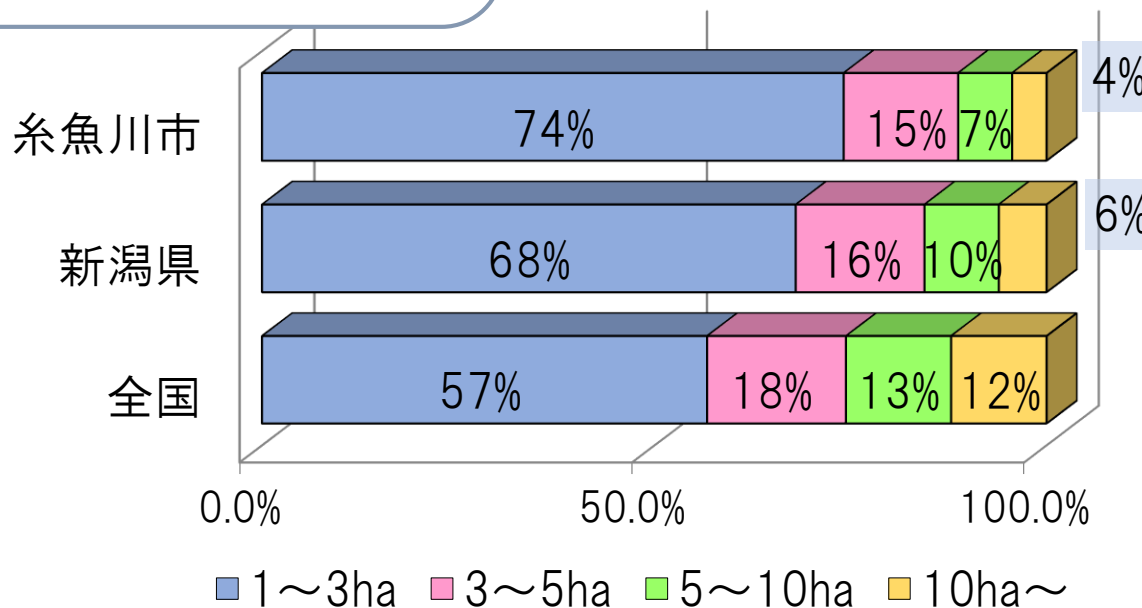
森林資源は

「植える→育てる→収穫する→加工する」のサイクル

糸魚川市の林業（林家）

2015農林業センサス（糸魚川地域振興局「いといがわの森林・林業」より抜粋）

所有山林面積規模別 林家戸数

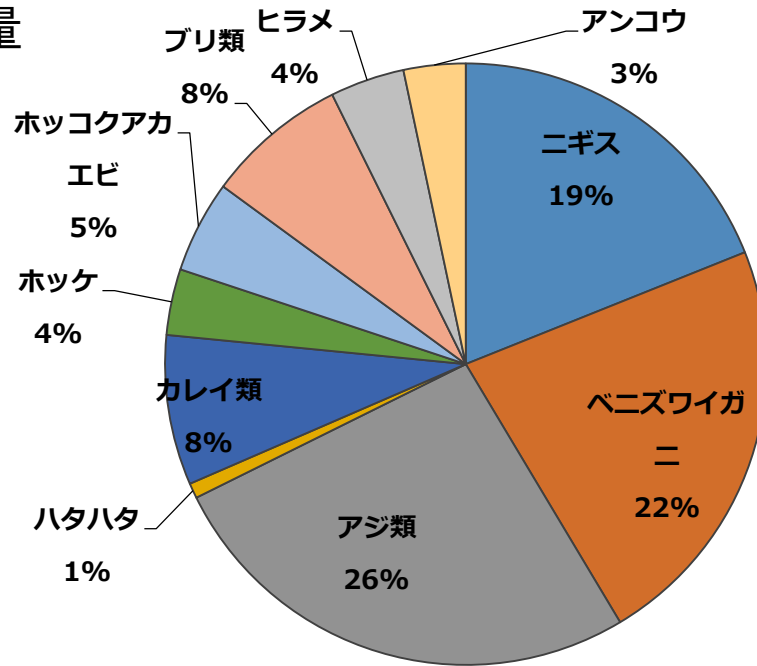


区分	総戸数	1～3ha	3～5ha	5～10ha	10ha～
糸魚川市	1,443	1,069	211	100	63
新潟県	27,105	18,430	4,453	2,575	1,647
全国	828,973	469,816	146,871	110,944	101,342

小規模な林家が多い。

糸魚川市の漁業（水揚量）

主な魚種別 水揚量



ニギス



ベニズワイガニ

単位：t	ニギス	ベニズワイガニ	アジ類	ハタハタ	カレイ類	ホッケ	ホッコクアカエビ	ブリ類	ヒラメ	アンコウ
上越漁協	254	293	210	11	105	48	67	32	53	43
青海町漁協	2	11	145	0	4	0	0	71	1	2

出典：農林水産課資料（H30.12.31漁協提供データ）

糸魚川市の漁場の特徴として

- ・ 魚種が豊富
 - ・ 漁場が近い
- 急峻な海底地形で、豊かな漁場がある。
日帰り操業により高鮮度の魚介類が手に入りやすい。

糸魚川市の漁業（体験、加工品）

上越漁協セリ市見学台

安全かつ衛生面もOK！プロのセリを身近に見学可能。



さざえファーム

マリンドリーム能生でさざえ獲り体験。BBQサービス等もあり。



特産品（加工品）



海洋高校開発
鮭魚醬
「最後の一滴」



上越漁協「昆布締めシリーズ」

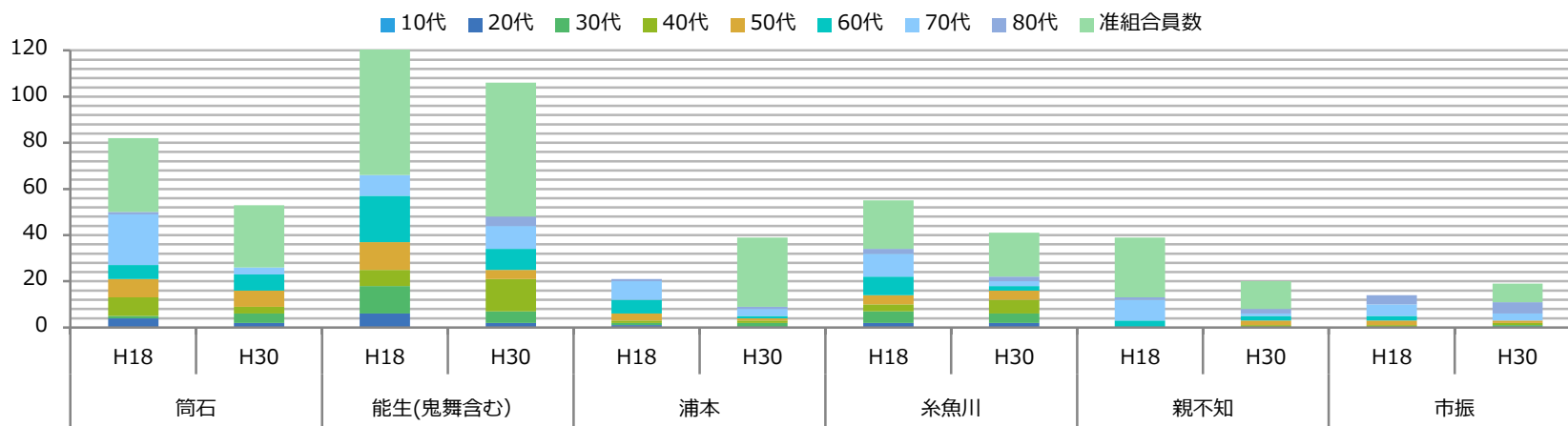
市内に漁業関連の見学、体験できる場所がある。
県内唯一の海洋高等学校が開発した特産品等がある。

糸魚川市の漁業（組合員）

漁協支所名	筒石		能生(鬼舞含む)		浦本		糸魚川		親不知		市振	
年度	H18	H30	H18	H30	H18	H30	H18	H30	H18	H30	H18	H30
10代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20代	4	2	6	2	1	0	2	2	0	0	0	0
30代	1	4	12	5	1	2	5	4	0	0	0	1
40代	8	3	7	14	1	1	3	6	0	1	1	1
50代	8	7	12	4	3	1	4	4	0	2	2	1
60代	6	7	20	9	6	1	8	2	3	2	2	0
70代	22	3	9	10	8	3	10	2	9	1	5	3
80代	1	0	0	4	1	1	2	2	1	2	4	5
正組合員計	50	26	66	48	21	9	34	22	13	8	14	11
准組合員数	32	27	56	58	0	30	21	19	26	12	0	8
合計	82	53	122	106	21	39	55	41	39	20	14	19

出典：農林水産課資料（H30.12.31漁協提供データ）

※上記表に青海支所組合員は含まれていない。（H30：正組合員5名、准組合員14名）



・正組合員（漁師）の60歳以上の割合は45.96%（57人/124人）